

トッランナー変圧器2014とキュービクルの耐震仕様について

トッランナー変圧器2014は、変圧器の耐震区分として耐震標準(設計用標準震度 0.4,0.6,1.0)と耐震強化(設計用標準震度1.5,2.0)に区分されています。この区分によりキュービクルに搭載する場合の仕様を表します。

耐震クラス・設置場所の適用は下表の通りです。

防振ゴムなしの場合

		建築設備機器の耐震クラス			適用階の区分	
		耐震クラスS	耐震クラスA	耐震クラスB		
上層階、屋上 および搭屋	設計用標準震度	2.0	1.5	1.0		上層階とは ・2～6階建ての建築物では、最上階とする。 ・7～9階建ての建築物では、上層の2層を上層階とする。 ・10～12階建ての建築物では、上層の3層を上層階とする。 ・13階建て以上の建築物では、上層の4層を上層階とする。 中層階とは ・地階、1階を除く各階で上層階に該当しない階を中間階とする。
	キュービクル対応	個別対応	個別対応	標準対応		
中間階	設計用標準震度	1.5	1.0	0.6		
	キュービクル対応	個別対応	標準対応	標準対応		
地階および 1階	設計用標準震度	1.0	0.6	0.4		
	キュービクル対応	標準対応	標準対応	標準対応		

防振ゴム付の場合

		建築設備機器の耐震クラス			適用階の区分	
		耐震クラスS	耐震クラスA	耐震クラスB		
上層階、屋上 および搭屋	設計用標準震度	2.0	1.5	1.0		上層階とは ・2～6階建ての建築物では、最上階とする。 ・7～9階建ての建築物では、上層の2層を上層階とする。 ・10～12階建ての建築物では、上層の3層を上層階とする。 ・13階建て以上の建築物では、上層の4層を上層階とする。 中層階とは ・地階、1階を除く各階で上層階に該当しない階を中間階とする。
	キュービクル対応	個別対応 (注1)	個別対応 (注1)	標準対応		
中間階	設計用標準震度	1.5	1.0	0.6		
	キュービクル対応	個別対応 (注1)	標準対応	標準対応		
地階および 1階	設計用標準震度	1.0	0.6	0.4		
	キュービクル対応	標準対応	標準対応	標準対応		

※用語及び定義は、建築設備耐震設計・施工指針2005(一般財団法人日本建築センター)による。

(注1) 変圧器端子部の変位抑制が必要となります(50kVA以下は不要)。この場合、変位を抑制するために構造物(アングルなど)でキュービクル函体と連結固定などを行います。よって、変圧器容量によっては函体サイズの変更が必要な場合があるため別途確認が必要となります。

注意事項

- 標準対応以外の耐震仕様を指定される場合は、別途見積が必要となります。この場合、函体サイズの変更が必要な場合があります。
- 適用範囲は、標準油入変圧器 3φ1000kVA 以下、1φ500kVA 以下です。